

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立相知中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「学力の向上」…県学習状況調査において基礎・基本の定着に課題が見られた。課題の解決に向けた取組を行う必要がある。 「業務改善・教職員の働き方改革の推進」…持続可能な社会を創る生徒の育成を図るために、持続可能な学校を創るための取組であるという意識を全職員で共有し、一層の業務改善を推進していく必要がある。 「望ましい生活習慣の形成」…幼保小中の連携した取組を実施し、SNSなどのネット関連の弊害について、保護者への啓発活動を継続していくことで、子どもたちのネット依存的な状況を改善していく必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	恕・克己・感謝の心をもち、生き抜く力を身に付けた生徒の育成
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>① いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育を推進する。(すべての教育活動の根幹への位置づけ)</p> <p>② 学習評価を指導に生かし、生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善を行う。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				中間評価	5 最終評価	主な担当者		
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価			最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員が90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・「唐津スタイル」とマイプランの取組をリンクさせ、「おすすめの自主学習」の取組の促進、授業改善を全職員で行っている。	A	・マイプランの成果指標を達成した職員は80%であった。 ・12月の佐賀県学習状況調査で1年生の国理英で県平均を上回った。	学力向上担当 指導法改善担当 校内研究担当
	○校内研究を踏まえた授業改善	○校内研究を踏まえた授業改善に取り組んだ教員が95%以上	・学習評価に対する研修を深め、学習評価を指導に生かす授業改善の促進を図り、県内の学校に公開する。 ・5月と10月に生徒による教師の授業評価を行い、授業改善を図る。	A	・10/19に研究発表会を行い、成果を公開した。 ・評価基準を生徒に示して授業を行うことで、どのようにすればAやBの評価になるかを確認して授業に臨んでいる生徒の割合が80%を超えている。	A	・授業改善については継続中である。授業では自分で調べたり友達と話し合ったりして、考えを深めたり深めたりしている回答した生徒は92%。 ・校内研究を踏まえて授業改善に取り組んだ教員は100%。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳や人権・同和教育に関する授業が自分を成長させるために役立っていると感じている生徒が90%以上	・特別の教科道徳の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・人権学習や部落問題学習の授業を家庭・地域や他校に公開する。	B	・人権・同和教育に関する授業公開は2回(ふれあい道徳、部落問題学習)、8授業を行った。	A	・特別の教科道徳の授業づくりに関しては、各学年のフォルダに教材を蓄積することができた。 ・人権学習については、町・地区内で授業公開を行い、新しい教材の開発に取り組んだ。	道徳教育担当 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答する教員が100%。	・年度当初にいじめの認知・覚知について共通認識を図る場を設ける。 ・生徒指導主事を中心に情報共有し、対応の協議を迅速に行う。	A	・6月のアンケートでは覚知漏れはゼロであった。 ・起こった事案に対しては組織的対応ができている。	A	・いじめの認知・覚知については「すべての職員が共通認識し、組織的対応ができている」と回答した職員は100%。 ・起こった事案に対しては組織的対応ができている。	生徒指導担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○時間の使い方を改善している生徒80%以上	・家庭での時間の使い方に留まらず、学校生活においてもタイムマネジメントを意図した指導を継続する。	B	・生活アンケートでは朝食の喫食、睡眠時間については良好であった。 ・スマホやゲームの使用度が高くなっており、家庭への啓発が必要である。	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んだ生徒は80%。「昨年度より時間の使い方を意識するようになった」生徒は93%。 ・SNSの使い方について、家庭への継続した啓発が必要である。	学年主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○昨年度より時間外勤務を減らすことができた教員を70%以上にする。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・年次休暇取得の推奨	B	・4項目についてはすべて取り組んでいる。 ・部活動、校内研究の取組のため、上期の時間外在校時間の上限は遵守できていない。	A	・年次休暇取得の推奨を行い、年休の取得は平均で昨年度比3時間増加した。 ・月ごとの時間外勤務が80時間を超えないように業務遂行、時間管理をしている職員は70%であった。2月までの平均時間外は38時間である。	教頭・教務主任

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
◎志を高める教育	○SDGs～持続可能な開発目標～を意識した教育活動の展開	○「持続可能な社会を創るための取組について考え行動している」生徒80%以上	・総合的な学習と「SDGs スタートブック」を活用した実践を行う。	A	・生徒会活動、総合的な学習の時間を中心に、SDGsを意識した取組、授業を計画・実施している。 ・制服の見直しを行っている。	A	・生徒会活動では、生徒がSDGsを意識した月ごとの活動を主体的に行い、総合的な学習では、SDGs17の目標に重ねつつ指導を行った。 ・「持続可能な社会を創るための取組について考え行動している」生徒は82%であった。	
○特別支援教育の充実	○生徒、保護者のニーズに応じた教育活動の展開	○特別支援学級の生徒、保護者の学校教育に対する満足度80%以上	・特別支援教育コーディネーターを中心に、全職員で適切な教育環境をつくる。 ・教職員、保護者の情報共有を密にししながら、生徒の個に応じた成長を促す。	A	・自・情学級では生徒に応じて完全個別指導が行えるよう、人的・物的環境を整えた。 ・教職員同士、保護者、関係機関との情報共有は密に行っている。	A	・特別支援教育コーディネーターを中心に環境整備や個に応じた教育課程の編成、保護者、教職員との情報共有など十分に行うことができています。特別支援学級に在籍する生徒の保護者の満足度は肯定的な回答が100%であった。	特別支援教育コーディネーター

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対応、教育相談、特別支援教育の領域では環境整備、職員の組織的な対応、他機関との連携など様々な手立てを行った。「困ったときに先生たちに相談することができる」と回答した生徒の割合が昨年より6%増加し、79%であった。信頼関係を紡ぐかわりを粘り強く行っていることが生徒に伝わっていると考えられる。 次年度の展望として、学力向上、人権・同和教育の充実、校則の見直しを行い、生徒の学校生活の充実感、保護者の学校教育への安心感を向上させたい。
--------------------	---